



麦の栽培管理情報

～麦踏、土入れ、カラスムギ対策～

令和7年12月 東部振興局生産流通部 集落営農・水田畑地化班

麦踏と土入れは、麦の生育をコントロールする重要な作業です。特に、土入れは排水対策も兼ねています。

冬季の気温が高いときや播種量が多すぎる場合は、耐寒性が低下し、徒長気味に生育して分けつ数が減ります。3葉期になったら麦踏、4葉期になったら土入れを開始し、麦の体を鍛えましょう。

3葉期になったら麦踏み開始、莖立期までに3～4回！

◆麦踏の効果 寒さに強く引き締まった体に変身

①徒長生育を抑える、②耐寒力を強くする、③分けつを促進する、④凍霜害を回避、⑤根量増加

1. 麦踏のポイント

- ・3葉期になったら1回、そのあと2～3回、合計3～4回実施します。
- ・麦が小さい時期は、軽めに行います。
- ・徒長気味の時は、回数を増やします。

莖立ち前までに積極的に！



2. 麦踏の注意点

- ・土壌水分が高いときに行うと湿害を起こしやすくなります。**必ず圃場が乾いた状態のときに行いましょう。**
- ・**麦踏を行うのは莖立期まで**です。莖立以後の麦踏は、幼穂を傷つけるため、避けましょう。

※莖立期の目安は、幼穂長が2cmになった頃

4葉期になったら土入れを開始、莖立期までに2回以上！

1. 土入れのポイント

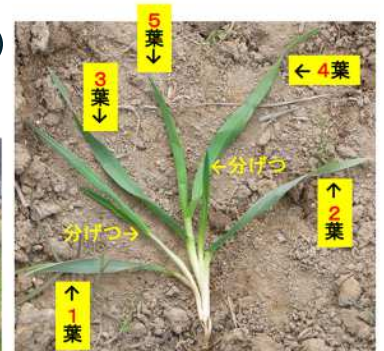
- ・分けつ初期の土入れ(1回目:4葉期)は土の量を少なめ、生育が進むにつれて量を増やします。
- ・播種量が多く、苗立ちが数が多い圃場では、土入れの回数を増やして過剰分けつを抑制します。
- ・追肥後に作業を行いましょう。 ※分けつ肥は3～4葉期、硫安10kg(窒素2kg)/10a

◆土入れの効果

湿害防止、雑草抑制、倒伏防止

- ①保湿、乾燥防止
- ②無効分けつを抑え、遅れ穂の発生を防ぐ
- ③株際への土入れで倒伏を防止する
- ④雑草防除
- ⑤排水促進

土が乾いてるときに、計画的に実施！



4. 5葉期

2. 土入れの注意点

・土入れは、土壌が乾燥した状態のときに行います。土が湿り土塊が大きいと、麦が埋まって土から出てこなくなります。

カラスムギ対策

湛水できない畑圃場はカラスムギの効果的な防除手段が乏しく、難防除雑草となっています。繁茂すると大きく減収するため、適切な対策が必要です。



①カラスムギの特徴

カラスムギの種子は、夏季の乾燥と高温条件をへて覚醒します。かなり深い位置からの出芽が可能で、覚醒時期にも幅があるため長期にわたって出芽します。**10月から出芽、12月頃に盛期、春先まで続く。出芽可能深度10~20cm**

②カラスムギとムギ類の見分け方

カラスムギとムギ類では、葉の形態に違いがあります。植物体が小さくても、葉のねじれ方と葉の付け根部分(葉耳の有無)で見分けることができます。

麦類：葉は右回りにねじれる(時計回り)、葉耳がある
カラスムギ：葉は左回りにねじれる(反時計回り)、葉耳はない

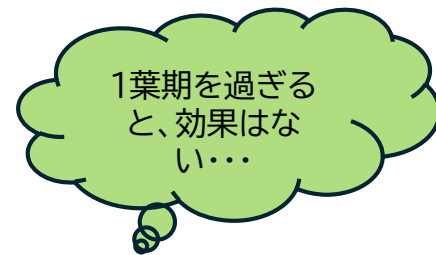
③除草剤による防除

カラスムギが発生する圃場は、土壌処理剤を①播種直後、②麦出芽期に処理します。発生が特に多い圃場は、春先に③追加防除を行います。

「カラスムギ出芽前~1葉期まで」を狙って散布

【除草剤の散布例】

- ①麦播種後出芽前：リベレーターフロアブル
- ②麦の出芽期：トレファノサイド乳剤
- ③春先：トレファノサイド乳剤



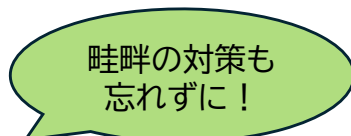
| 薬剤名 | 使用時期 | 10aあたり使用量 | | 使用方法 | 使用回数 |
|-------------|---|-----------|------|---------------------|------|
| | | 薬量 | 希釈水量 | | |
| リベレーターフロアブル | 播種後~麦3葉期まで (イネ科雑草1葉期まで) | 60~80ml | 100L | 雑草茎葉散布 または全面土壌散布 | 1回 |
| トレファノサイド乳剤 | 播種後出芽前(雑草発生前) 生育期(雑草発生前)※但し、 収穫45日前まで | 200~300ml | 100L | 全面土壌散布 | 2回以内 |

◆土壌処理剤は、土壌表層の雑草種子を狙う！

土壌処理剤は、土壌表層に処理層を形成して雑草種子の出芽を抑制します。そのため、処理層より深い位置にある雑草種子には効果が劣ります。土壌処理剤は、カラスムギの総発生量を低減させるために使います。

④総合防除の必要性

カラスムギは、除草剤に頼った防除だけではうまくいきません。**複数の防除技術を組み合わせ、数年かけて徹底防除**する必要があります。



麦の播種前：①石灰窒素による出芽前進化(10月)→非選択性除草剤

麦の播種後：①土壌処理剤(2~3回)、②手取り除草

麦作の前後：①深耕(発芽困難な深さに埋土)、②休耕(品目転換と耕起)、③常時湛水(夏期20日間以上)、④不耕起管理(種子を地表面にとどめ出芽の前進化→非選択性除草剤)